

経皮的吸引により筋組織の滑走が生じる

○渋谷智也 1,5)、武村政徳 2)、上野博司 3)、中尾哲也 4)、賀屋光晴 5)、
山下陽一郎 6)、辻田純三 6)、狩野祐司 6)、川口純子 7)

1)MJ カンパニー、2)市橋クリニック、3)ジェイクラフト、4)関西医療大学、
5)兵庫医療大学、6)健康スポーツ医科学研究所、7)岐阜県スポーツ科学センター

【背景】我々は経皮的な吸引により関節運動や筋収縮の無い状態でも筋群や深筋膜の滑走が起こることを利用し筋や他の組織との可動性や伸展性を改善できることを経験しているが、施術中の筋組織の変化や施術前後の深筋膜の滑走性の評価はなされていない

【目的】大腿外側部の経皮的吸引により皮下の外側広筋・筋膜の滑走が生じ改善するか超音波画像を用いて検討した【方法】大腿四頭筋の疾患を患ったことのない健常成人 7 名を対象とし、大腿外側部遠位 2 分の 1 を特殊なノズルを用いて吸引しながら長軸方向に沿って約 1Hz のリズムで往復させた。膝関節 0 度(伸展)から 45 度(屈曲)に他動的に関節運動を行った時の大腿外側面超音波画像を 1 分間の吸引療法前後で観察記録し比較した【結果】膝関節屈曲 45 度における中間腱の移動距離(mm)は吸引療法前が 26.8 ± 7.57 、吸引療法後 32.2 ± 7.39 であり、吸引療法により有意に改善され先行研究の筋膜リリースと同等な効果が確認できた。また、膝関節屈曲 45 度における筋膜の移動距離に対する割合(%)は、それぞれ 16.9 ± 6.40 、 14.6 ± 5.27 であった

【結論】

経皮的吸引中の筋膜の変化を示すことができ、吸引を利用した施術アプローチは徒手療法の筋膜リリースと同様な効果が期待できるといえる。